

# みほとけ

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺990

T E L 048 - 794 - 1759

F A X 048 - 794 - 3388

E-mail jyougenji@hotmail.com



## 常源寺と檀信徒をつなぐ

### 巳年に願う

檀信徒の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、喪中にて新年を迎えられました方には、本年が良き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

今年は巳年、干支の動物は蛇です。蛇は、古来より信仰の対象であり、縁起物でもありました。

「蛇を三匹見ると夜はご馳走がでる」「蛇の抜け殻を財布に入れておくと金が貯まる」など蛇にまつわる言い伝えも多く、昔の人々は蛇との出会いを吉兆の手がかりとして受け取っていたようです。

蛇は仏教との関わりも大変深く、仏典にもしばしば登場します。お釈迦様が残した言葉をまとめた「スッタニパータ」という古い経典には、「蛇の章」があり、成長するにつれて古い外皮を脱ぎ捨てて脱皮する蛇が、この世の煩惱を断ち切り悟りの世界に入ろうとする仏教の修行者のようであるとのお釈迦様は繰り返し説かれています。

また、蛇は脱皮して再生を繰り返すこと、古い外皮を捨てて成長し続けることから、不老長寿や出世の象徴としても敬われてきました。蛇の抜け殻はとても綺麗な形をしています。古い殻を脱ぎ捨てて新しく生きること、過去にとらわれず新しく生きること、私たち人間もそうでありたいものです。

令和7年が檀信徒の皆様にとりまして幸せな一年になりますことを心より御祈念申し上げます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



#### ■ 暮らしの中の仏教用語

##### 料理 (りょうり)

お正月にはおせち料理を食べる機会があるかと思いますが、料理という言葉も元々は仏教から生まれた言葉であると考えられています。広辞苑で「料理」と調べると「材料に手を加えて食べ物をこしらえること」と書かれていますが、料は「はかる」、理は「おさめる」と読み、筋道を立てることを意味します。仏教における「料理」とは、物をほどよく修繕すること、物事を処理することを指すのです。

そこから転じて、食べ物を煮炊きして味わいを添えることを料理と呼ぶようになったわけです。

#### ◇ 仏教なんでもQ&A ◇

##### Q 数珠じゅうずって何ですか？

A 数珠わんじゆは念珠とも言い、本来はお経を読んだ回数を数えるための仏具でした。玉の数は正式には108玉あり、その一つ一つが108の煩惱を司る仏様を表しているとされ、常に数珠を持って仏様に手を合わせることで、煩惱が消滅し、功德を得られるとも言われ、魔除けや厄除けになるとも考えられています。玉の数は108の半分の54玉や、さらにその半分の27玉と簡略化されたものも一般的です。数珠を摺るようになったのは、覺猷かくゆうという人物が、法要の際にお付きの僧侶に法要の終わりを知らせるために摺ったのがはじまりとされています。それがいつの間にか本尊を念ずる気持ちを数珠に託すために摺るようになったのでしょう。数珠をお持ちの方は、御法事の際にもぜひ御持参ください。

# 年回忌等の御法要について

年回忌等の御法要は、故人様の御冥福を祈り、御先祖様を御供養する大切な仏教行事です。また、常源寺では、御法要において、御先祖様の御冥福とともに、御家族皆様の家内安全、除災招福等も同時に御祈念させていただいております。

令和7年に年回忌に該当している御家庭におかれましては、故人様の「御戒名」、「俗名」、「御命日」を記入したものを同封いたしましたので、御法要の参考にしてください。

なお、御自宅が遠方等の理由で、御法要を実施することが難しい場合、御塔婆のみの御供養も受け付けております。

御不明な点等は御遠慮なくお寺までお問合せください。

## 令和7年 年回表

一周忌	令和6年逝去
三回忌	令和5年逝去
七回忌	平成31年・令和元年逝去
十三回忌	平成25年逝去
十七回忌	平成21年逝去
二十三回忌	平成15年逝去
二十五回忌	平成13年逝去
二十七回忌	平成11年逝去
三十三回忌	平成5年逝去

## <御法要のお申し込みについて>

① 御希望の日時と場所をお寺へ御連絡ください。すでに別の予定が入っている場合もございますので、代わりの日時もあらかじめお考えくださると幸いです。

※ 御法要のお申し込みはなるべく早めにお問い合わせいたします。特に、土日や祝日は多くの方が御法要を予定されていますので、直前の御連絡では御希望に添えない場合がございます。

② 御塔婆をおつくりになる場合は、御塔婆をおつくりになる方の御名前をお知らせください。御塔婆のお申し込みは、遅くとも御法要の1週間前までにお願いいたします。

※ 御法要の中で御名前をお呼びいたします。御名前には必ずふりがなをお付けください。

## ■ 御法要のお勤めの仕方 ■

○ 身内の方には、日時と場所は、電話などでお知らせすればよいですが、故人様と生前縁の深かった方をお招きする場合には案内状を出すのが丁寧です。

○ できれば御法要の前にもお墓参りをして墓所を掃除し、香華をお供えして年忌法要を営むことを墓前に御報告しましょう。

○ 仏壇はきれいに掃除し、花などを荘厳しておきます。また、仏飯、霊膳、お菓子、季節の果物、故人様が好きだったものをお供えしておきましょう。

○ 御法要をお寺で営む場合、**御位牌、写真、墓参用の花・線香、念珠**を御持参ください。御本尊様への生花・御供物の御持参は任意とさせていただきます。

## 成道会(じょうどうえ)

12月8日は、お釈迦様がお悟りを開かれたことをお祝いする「じょうどうえ成道会ほだいじゆ」の日です。

29歳の時に出家されたお釈迦様は、6年間の苦行を続けた後に菩提樹という木の下で12月1日から坐禅に入られ、1週間の坐禅の後、ついにお悟りを開かれました。「成道」とは、「悟りを開き仏道を成就する」という意味で、お釈迦様が成道された12月8日は、仏教の教えが生まれた日であり、仏教徒にとっては大変意義のある日です。

成道会では、お釈迦様が悟りを開かれて成道されたことを讃えて感謝するために、宗派を問わずにさまざまな法要や行事を執り行います。常源寺においても、12月8日に本堂において成道会の御法要をお勤めさせていただきました。

